県下の交通事故（6月26日現在）

区分／年別	事故件数	死者	傷者
58年	2,001件	65人	2,550人
59年	1,992件	43人	2,636人
比較	−0.4%	−33.8%	+3.4%

やまなし安協ニュース

◇第 64 号◇
発行所
甲府市丸の内一丁目6－1
財団法人山梨県交通安全協会
TEL 甲府（0552）37－7827

ストップ!!横断する人いるでしょう

夏の交通事故防止県民運動

－7月21日～8月31日－

子供と高齢者を守ろう

みんなで気くばり 思いやりゆずりあい運転を

夏は行楽シーズンと児童、生徒の夏休みが重なり、季節的に交通事故が多発するときです。子供と高齢者を対象に交通安全思想を高めるとともに、道路を利用するすべてのものが正しい交通ルールとマナーの実践を習慣づけることにより、交通事故を防止する目的で、七月二十一日から八月三十一日までの間「夏の交通事故防止県民運動」が実施されます。県交通安全対策本部が決めたおもな実施事項は次のとおりです。

運動の重点

一　子供と高齢者の交通事故防止
二　スピードの出し過ぎ、いねむり、飲酒運転による交通事故防止
三　シートベルト、ヘルメット着用の推進
四　暴走族追放運動の推進
五　二輪車安全走行の推進

交通安全は家庭と職場と地域から

子供と高齢者を交通事故から守ろう

1　子供には、くりかえし交通ルールを教えましょう。
2　幼児のひとり歩きはさせないようにしましょう。
3　高齢者が事故にあわないようみんなで手をかしましょう。

安全運転しよう

1　スピードはひかえめに運転しましょう。
2　運転中ねむくなったら休みましょう。
3　飲酒運転は絶対にやめましょう。

交通安全は家族ぐるみですすめよう

1　交通事故にあわないよう家族みんなで話し合いましょう。
2　運転する人には、絶体に酒を出さないようにしましょう。
3　交通ルールを守り、子供の手本になりましょう。
4　夜間外出するときは、目立つ服装か反射材を身につけましょう。

シートベルト・ヘルメットを着用しよう

1　運転する人も同乗する人も、必ずシートベルトをつけましょう。
2　バイクに乗るときは、必ずヘルメットをつけましょう。
3　バイクや自転車は、並んで走らないようにしましょう。

地域ぐるみ、街ぐるみで暴走族を追放しよう

1　暴走族、暴走行為を見たら一一〇番に通報しましょう。
2　みんなの力で「三ない運動」をすすめましょう。（しない・させない・ゆるさない）
3　整備不良車をみんなで追放しましょう。

交通安全は家族ぐるみで

安全のために

運転ミスをどう防ぐか (3)

東京大学名誉教授　平尾　収

運転しながら自分の車のおかれた環境を監視するために必要な情報はたくさんあるが、自分がある行動、例えば、交差点直進、右折、左折、停止、追越しなどを行うときには特別に重要な情報というものが出てくることになる。

例えば信号機のある交差点に近づくときには、自分の車がそこに達するまでに信号機のサイクルがどうなるかということを、できるだけ早い時期に把握することも大切なことの一つになる。例えば車両用の信号はまだ青であっても歩行者用の信号の青が点滅し始めていれば、車両用の信号もやがて黄に変わることがわかる。そこでバックミラーで後続車の動静を見る。このとき後方直近に車間をつめた追随車があれば、そのことを念頭においた行動が必要である。不用意に止まれば追突されるおそれもあるわけである。交差点の大きさ、また対向の右折車が信号の変わるのを待っているかどうか、横断しようと待機中の歩行者特に自転車の有無や動静、自分の車と信号が黄に変わるタイミングなどを計算しながら、そのまま直進通過するか、交差点の手前で止まって次の青信号で通過するかの意志決定が必要になるのである。

この場合、信号が黄に変わってもそのまま通過した方がよいのか、止まって次の青で通過した方がよいのかということは、右にあげたいろいろな情報の絡み合いで微妙に変わるのであって、一概に止まった方がよいとか、通過した方がよいとかいうわけにはいかないのである。自分の車、後続車、交差点中の右折車、歩行者、自転車などすべてに「二秒のゆとり」を与えるように行動を選ばなければならないのである。そのためにはそこで重要になってくる情報を早め早めにとって、前後左右に「二秒のゆとり」をつくりながら、交差点に近づくことが大切なのである。

早め早めに重要情報を選択してとる技術は安全運転の基礎になるのである。具体的にいえば、運転しながらの「目のつけどころ」、「注意の配り方」の会得ということになる。

やさしく走ろう

これは筆者の最も好きな標語である。ずい分流行した「ゆっくり走ろう」は「ゆったり走ろう」となおすべきではないかと思う。心を鬼にしてゆっくり走ったのでは何の役にも立たないし、互いにギズギスしたのでは事故防止にもつながらないのではないか。もし、いやそうではない、問題はゆっくり走るというそのいたわりや思いやりの心なのだということであるならば、「ゆったり走ろう」となるのではないか。ゆったりしたゆとりのある心になれば自然走り方も控え目になり、周囲への気配りも出てくるというものではないか。筆者は、

やさしく走ろう
ゆったり走ろう

と並べてみたいと思う。「走れ」と言わずに「走ろう」と勧奨形にしたところがよい。また、「やさしく」「ゆったり」というのは自動車の走り方文化の根本に据えるものだと思う。標語の話になったついでに、いつだったかの当選標語に

スピードは控え目に

ブレーキは早目に

というのがあったと思うが、これは傑作だと思っている。「かも」の姿勢になれば自然にこの標語のような運転になり、事故は防げるのである。

「だろう」しかわからないドライバーにいくら説いてもこれは実行できないことだと思う。

安全走行五つのポイントをあげると次のようになる。

(1) 横断歩道の自転車に注意
(2) いつでもどこでも二秒のゆとり
(3) 割込みは相手の合意を得て
(4) 右左折は歩く速さで
(5) 一時停止の発進も歩く速さで

(1)については、最近歩道上を走ってきた自転車がそのままスピードを落とさず、横断歩道に走り込んで来る光景をよく目にする。歩行者の一団が横断し終った頃に乗り込んでくる自転車は特に危ない。右折車、左折車の死角からいきなりかなりのスピードで乗り込むのは、ドライバーにとって予測がむずかしいだけに子どものとび出しよりも発見がむずかしい。

(2)は状況によって二秒は三秒になり、四秒にもする必要が出てくる。特に裏通りの生活道路などでは、歩行者にほぼ合わせたスピードまで落とす必要がある。歩いている相手のことを考えれば当然とことである。

ホーンも鳴らさないで済むようにする。これがやさしい走り方なのである。

(3)は、今の交通状況では右折、左折、直進などでどうしても互いに割込みで車線変更しなければならないことが多い。もう、割り込み、割込ませはお互い様という状況が多い。そのような場合大切なことは、相互の合意である。ウインカーで意志表示をしながら、相手の流れより少し遅い速度でしばらく相手の流れをやり過ごしながら走っていると、二台か三台やり過ごしているうちに割り込ませねくれる車が必ずあるというのが現状である。割り込んでから左手を軽く上げると、バックミラーの中で相手も合図を送ってくれる。こういう文化が東京ではほぼでき上がりつつある。関西から出てきた知人がびっくりしていたから、まだ全国的なものではないのだろう。これこそまさにやさしさ、おもいやり、ゆったりで推進して、みんながお互いに利益を得ることではないか。

(4)の右左折は、情報が複雑でとかく見落としが多いので、歩く早さにすれば万一のときでも大事に至らない。バックのときにもこれは鉄則。

(5)の、一時停止のあとの発進の仕方が実は問題なのである。当然見通しの悪いところも多い。歩く速さで頭を出して行けば相手が見てくれることになる。こちらからは相手が見えなくてもホーンを鳴らすとか止まるとかしてくれるのである。

県安協定期総会開く

中村会長再選される

交通弱者の事故抑止を

県交通安全協会（中村太郎会長）は、五月二十六日甲府市丸の内二丁目古名屋別館において、昭和五十九年度定期総会を開催し、昭和五十八年度の事業報告並びに決算報告を審議し、満場一致で承認しました。

このあと、任期満了に伴う役員政選を行い、全会一致で中村会長の再選を決めました。また高村捷治副会長と吉田文男常任副会長の退任に伴い、高野慶貴、小沢照次、雨宮崇敬各副会長の留任と、大月安協会長である藤野要理事の副会長就任を決定しました。

また監事には、荻原茂賀氏の留任と、島和明（長坂）富田衛（上野原）両氏の就任を決めました。

永年、県安協の育成発展に尽力された高村捷治、吉田文男両氏をはじめ、永年、監事として尽力された中込太四郎、鈴木要吉両氏、また退任された理事・評議員に対し中村会長から謝意を表し、その功績をたたえました。

なお県警察本部塚田文通部長から、本年の交通事故発生状況と事故分析結果の説明を受け、全体の減少の中で増加傾向にある老人と子供等交通弱者の事故防止に一層努力することとしました。

県安協定期総会であいさつする中村会長

高村捷治氏　吉田文男氏

県安協副会長を退任される

県交通安全協会、副会長高村捷治氏と常任副会長吉田文男氏には、五月二十六日の定期総会において退任されることとなりました。

両氏は、永年にわたり、交通安全協会の育成発展と交通安全に尽力され、その功績は誠に大きく、業績は永くたたえられることと思います。ここに両氏の功績の一部を紹介し、ますますのご健勝とご発展を祈念いたします。

高村捷治氏

高村氏は、昭和十五年から安協吉田支部の評議員、理事、副会長を歴任し、同三十七年から富士吉田安協会長、同四十三年五月から県安協副会長に就任し、その間、山中湖村議長、同村長を歴任する等永年にわたり交通安全の推進、地方自治の振興に多大の貢献をされました。

その功績により、交通栄誉章緑十字金章、藍綬褒章、勲五等双光旭日章等を受賞しました。

吉田文男氏

吉田氏は、長坂・韮崎・日下部・富士吉田各警察署長、警備部長兼交通課長、甲府警察署長等の要職を歴任して昭和四十一年三月退職し、同年四月から県安協事務局長、専務理事、同五十七年五月から常任副会長に就任し、現在まで十八年間にわたり県安協の役職員として在勤し、安協の法人化をはじめ、その育成発展と交通安全に多大の貢献をされました。

その功績により、警察功績章、県政功績者表彰、全日交協会長表彰、関東管区警察局長・同安協連会長表彰等を受賞しました。

山梨県交通安全協会　昭和五十八年度事業報告

◇四月十日
安協ニュース第五十九号発行

◇四月二十七日
二輪車安全運転推進委員会委員、幹事合同会議

◇五月十一日～二十日
春の全国交通安全運動
きいろい羽根六万二千本、横断旗二千五百本、ポンピー百二十五本、ポスター千枚、ちらし三千枚、自転車事故防止ポスター二千二百五十枚、同ちらし二万二千枚、新入学児童用腕章九千本、同母親向ちらし九千枚、安協ニュース十三万二千三百部、映画フィルム五本

◇五月三十日
正副会長会議
理事会、評議員会合同会議

◇六月十九日
第十四回交通安全こども自転車山梨県大会

◇六月二十六日
第十三回二輪車安全運転山梨県大会

◇六月三十日
自転車安全教育推進委員会委員、幹事合同会議

◇七月一日～八月九日
二輪車安全運転推進月間

◇七月五日
安協ニュース第六十号発行

◇七月二十一日～八月三十一日
夏の交通事故防止県民運動

◇八月一日～三十一日
シートベルト着用推進運動

◇九月一日
安協ニュース第六十一号発行

◇九月二十一日～三十日
秋の全国交通安全運動
きいろい羽根六万八千八百本、ポスター二千百枚、リーフレット二千枚、横断旗二千本、同容器二百個、ポンピー百二十五本、TSマーク普及用ポスター八百五十枚、同ちらし八千枚、自転車安全ポスター千百枚、同ちらし一万枚、交通事故抑止のリーフレット二万枚、安協ニュース十三万二千三百部、映画三本

◇九月二十二日
第十七回交通安全写真コンテスト審査

◇十月六日
二輪車安全運転指導員講習会

◇十月十三日
二輪車安全運転準指導員講習会

◇十月十八日
第二十五回山梨県中学生交通安全弁論大会

◇十一月二日
交通安全功労者、優良運転者等表彰式

◇十一月二十八日
峡西、峡北安協ブロック会議

◇十二月五日
安協ニュース第六十二号発行

◇十二月二十日～一月十日
年末年始交通事故防止県民運動

◇一月七日
交通安全祈願祭
理事会、評議員会合同会議

◇三月十日
安協ニュース第六十三号発行

◇三月二十四日
正副会長会議
理事会、評議員会合同会議

◇年間
全日交主催の各種講習会に受講者派遣、映画の購入と貸し出し、交通PR誌「人と車」配布、高校生二輪車安全運転講習、原付受験者に対する実技講習、自転車安全教育の実施、甲府家裁に協力し交通違反少年に対する講習、運転免許更新時講習行政処分者講習、安全運転管理者講習、教習所指導員等講習、山梨県交通安全母の会連合会の事務局担当に伴う業務、日本交通管理技術協会山梨県支所としての業務

あなたも写真を

第18回交通安全写真コンテスト募集要綱

県安協では、県警本部等の後援を得て、第十八回交通安全写真コンテストの募集を、次のとおり行います。

◇趣旨
交通関係の写真撮影を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓発指導に資するため。

◇題材
一般的に交通の場面を撮影したもの（道路交通の状況、よい交通、悪い交通、交通教育、交通施設、交通安全運動、その他交通安全活動の状況等）および交通事故現場の状況を撮影したもの。

◇印画
白黒またはカラープリント

◇サイズ
白黒、カラーとも四ッ切り

◇締め切り
昭和五十九年八月三十一日

◇送り先
甲府市丸の内一丁目六―一（〒四〇〇）
財団法人山梨県交通安全協会　電話〇五五二(37)七八二七

◇発表
昭和五十九年九月下旬

◇審査員
主催者、後援者の委員および主催者の委嘱する写真専門家

◇賞
最優秀賞一名、賞状、賞金二万円
金賞四名、賞状、賞金一万円
銀賞四名、賞状、賞金七千円
銅賞七名、賞状、賞金五千円
佳作若干名、賞金三千円

◇応募規定
①応募作品は未発表のもので、他に発表予定のないものに限る。撮影の時期は問わない。
②応募作品には必ずネガを添付すること。ネガのないものは入賞することはできない。
③応募作品およびネガは返却しない。
④応募作品の版権は主催者に属する。
⑤応募作品の裏面には必ず応募票をはり、次のことを記入すること。住所、氏名、題名（事故写真については事故原因）
⑥審査は交通安全思想の高揚に役立つものおよび写真技術等を重視して行う。

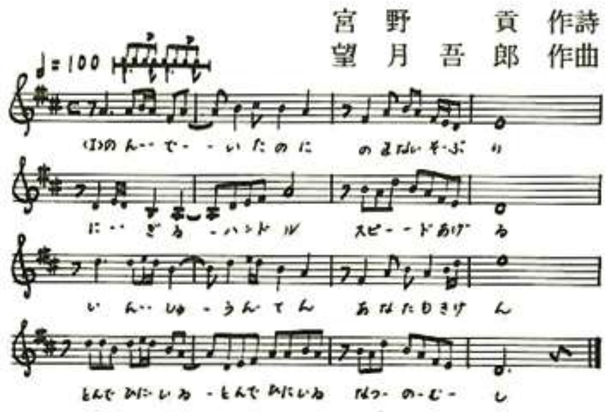
◇主催
財団法人山梨県交通安全協会

◇後援
山梨県警察本部
山梨日日新聞社
山梨県交通安全母の会連合会

締め切りは 8月31日

飛んで火に入る

詩　宮野　貢
曲　望月　吾郎



飛んで火に入る
作詩　宮野　貢
作曲　望月　吾郎

飲んでいたのに　飲まない素振り
握るハンドル　スピード上げる
飲酒運転　あなたも危険
飛んで火に入る　飛んで火に入る
夏の虫

酔いが回れば　おびえる眼（まなこ）
事故が事故よぶ　涙を誘う
飲酒運転　あなたも危険
飛んで火に入る　飛んで火に入る
夏の虫

飲んでいたのに　飲まない素振り
ルール忘れる　マナーを捨てる
飲酒運転　あなたも危険
飛んで火に入る　飛んで火に入る
夏の虫

交差点

事故のない ふるさとづくり

甲斐路で示そう 交通マナー
ルール違反は みんなで監視

これは昭和五十九年中の山梨県の交通安全年間スローガンです。

県民期待の国民体育大会もあと二年後に迫ってまいりました。全県下にまたがる各種競技の施設づくりをはじめ環境整備も順調に進み、大会への諸準備は着実に進んでいるようです。

国体を契機として、ますます健康で明るく住みよい郷土として発展することを心から期待するものです。

ところで、本県の昨年の交通事故死者をみると、人口十万人当たり一五・八人で全国ワーストワンと最悪で、ここ数年の状態とあわせてみても、まさに交通危険度の高い県と指摘されています。

近づく「かいじ国体」を成功させるためにも、先ずこの汚名を返上し、明るい事故のないふるさとづくりに努めることが大切ではないでしょうか。

そのためには、県民一人ひとりがスローガンにいう交通マナーの向上と基本的なルールを守ることを実践し、運動の重点である「ゆっくり走ろう運動」の定着化を図り、事故のない山梨を実現したいものです。

今年に入り減少傾向を続けていた交通死亡事故が五月から再び増加しはじめ、しかも、その半数近くが、スピードの出し過ぎと飲酒運転によるものといわれます。

交通事故は、起きるものではなく、人が起こすものであることを忘れずに、お互いに、正しい道路利用者になるよう努力したいものです。

「大切な命をみんなで守りあいましょう」

県警察本部交通部長　塚田岳夫

昨年五月二十六日、日本海中部地震により日本海沿岸が津波に襲われました。このときの死者は一〇四人にのぼり、地震とくに津波のこわさをまざまざと見せつけられました。男鹿半島では遠足に来ていた小学生十三人が波にさらわれました。遺体にすがりついて泣く母親の姿に涙を誘われました。

昨年山梨県内では交通事故により百二十八人が亡くなりました。人口十万人当たり一五・八人で全国で最も危険な地域という結果になりました。子供は前の年の五倍に当たる十五人が死亡し、老人も前の年より十五人増えて四十二人になりました。

このように子供、老人、また歩行者、自転車という交通弱者の占める割合が高いことが本県の特徴になっています。今年になってから今のところ昨年の同じ時期に比べて子供、老人をはじめ死者全体が減少していますが、けが人は子供も老人も昨年より増加しており、相変わらず危険な状況にあります。

ドライバーの皆さん。事故の中で最も多いのは歩行者の横断中の事故です。横断歩道をはじめ歩行者とくに子供と老人に十分注意し、こうした交通弱者の生命を守ってやって下さい。

次に多いのは交差点での出合がしらの事故です。とくに一時停止をしなかったり、黄信号を無視するなど安全確認をしないことが事故につながっています。

道路の形状ではカーブの事故が増えました。カーブでスピードを落さなかったり、追越しをしたり、対向車線に出るなど無謀な運転によるものです。

事故の原因別に見ますと○スピードオーバー○飲酒○わき見○居眠りをはじめ基本を守らない無謀な運転が死亡事故につながっています。基本が守られなければ文字通り車は「走る凶器」になってしまいます。どうか基本を守り人の生命を尊重して下さい。それからご自分の命も守って下さい。そのために必ずシートベルト、ヘルメットを着用して下さい。

子供さんや高齢者とその周囲の皆さん。自転車や歩行中は必ず信号を守って下さい。道路の横断にはとくに気をつけて下さい。道路へのとび出し、車の直前直後や斜め横断など死亡事故の大きな原因になっています。

ドライバーも自転車も歩行者もみんなで注意し合って大切な命を守り合いましょう。

人の尊い命が一瞬の内に失われ悲しいきわみですが交通事故の場合も同じです。むしろ交通事故は人の作った車を人が運転して人の命を奪うのですから全く残念なことですし、それだけにみんなで交通事故を防がなければなりません。

山梨市議会で着用を決議

シートベルト・ヘルメット

山梨市議会においては、さる三月二十七日の定例会で、「シートベルト及びヘルメット着用運動に関する決議」を提案し、満場一致でこれを可決しました。

この決議は、運転者の安全運転意識を高め、万一の場合にも被害を軽減する効果の高いシートベルトとヘルメットの着用運動を展開するとともに、これを率先して着用することを宣言したものです。

交通事故を防止し、明るく住みよい町づくりを目指そうとの願いをこめて始められましたが、事故防止に大きく貢献するものと期待されています。

シートベルト及びヘルメット着用運動に関する決議

悲惨な交通事故を防止し、明るく住みよいまちづくりを進めることは、三万市民すべての願いである。

しかしながら、交通事故は関係機関の日夜の努力にもかかわらず、ここ数年増加傾向に転じ、市民の尊い生命が奪われ、あるいは傷つけられていることは、きわめて憂慮に堪えないところである。

本議会は、市民の安全を守る一環として交通事故防止に総力を結集するとともに、運転者の安全運転意識の自覚と高揚を促し、万一の場合においても被害軽減効果の高いシートベルト及びヘルメットの着用運動に積極的に取り組み、これを率先着用することを宣言する。

右、決議する。

昭和五十九年三月二十七日

山梨市議会

関東管区 表彰に輝く

大月交通安全協会と奥石政雄氏ら

関東管区交通安全協会連合会の昭和五十九年度定期総会は、五月二十五日、東京農林年金会館で開かれ、席上、交通功労者・優良交通安全協会・優良職員の表彰が行われました。

本県関係の受賞者(協会)は、次のとおりです。

なお、その際、交通功労者の夫人も内助の功により、それぞれ感謝状を贈られました。

○関東管区警察局長・関東管区交通安全協会連合会長連名表彰

〔交通安全功労者〕

奥石政雄（韮崎）関口喜子策(日下部)望月邦文（鰍沢）八木吉治（市川）石川吉雄(南甲府)熊谷明治（南部）臼井仁三(県安協)岩間要治（甲府）植野友規（塩山）鶴田美枝（県交母）

〔優良交通安全協会〕

大月交通安全協会（藤野要会長）

○関東管区交通安全協会連合会長表彰

〔優良職員〕

五味一成・清水進（山梨自動車学校）

関東管区交通安全功労者等表彰式

さあ出発 シートベルトと心をしめて

わが国の交通事故死者は、昭和四十五年の一六、七六五人をピークに、毎年減少傾向を続けておりましたが、昭和五十四年からまた増加に転じてきました。交通事故による死傷者を減少させるため、交通環境の整備、交通安全教育、交通指導取締り等それぞれの施策が講じられておりますが、現在のような交通情勢の下ではその効果を十分発揮させることがなかなか困難であります。

そこで交通事故死者の減少を図るためには、全交通事故死者の約四割を占める四輪車乗車中の死傷者をいかにして減少させるかということが大きな課題の一つであります。

ちなみに、自動車乗車中の死者の損傷部位は、頭部、胸部、顔面、など上半身がほとんどであること及び死者の九四・六%がシートベルト非着用であることを考えると、シートベルトを着用していれば交通事故死を免れることができたであろうと思われるものがたくさんあるということです。

それでは、シートベルトを着用していれば事故の際どんな効果があるかといいますと、正面衝突や追突などの衝突事故において、乗員が頭や胸をフロントガラスや車内で打つことを防ぐとともに、衝突のはずみで車外へ放出されるのを防止するし、さらに車内でころがったりしないですむわけです。そのため、前に述べましたように上半身を損傷しなくてすむ訳ですから、シートベルトを着用することによって交通事故死者を確実に減らすことができます。

このような考えのもとに、昨年本県で発生した交通事故死者一二八人のうち、四輪自動車に乗車中の四七人についてみますと、シートベルトを着用しないでハンドルや計器盤に頭を打ったり、車外にほうり出された人二一人は着用していればおそらく死を免れ得たものと思われます。

このようにシートベルトは着用していれば確実に効果のあるものでありますから、今後は必ずシートベルトの着用を励行することが交通死亡事故の抑止へつながることを思うとき、その期待はますます大きくなっていくものと思われます。シートベルトはまさに「死—止ベルト」です。

（交通企画課）

山梨県交通安全協会会員のための災害共済のお奨め

万人は一人のために　一人は万人のために

※ 保険会社の職員が内容説明に伺います。

提供団体　山梨県交通安全協会

引受会社　協栄生命

甲府市丸の内三丁目20—3

TEL　0552（22）4836代

山梨県警察本部よりお知らせ！

運転免許証の「うっかり失効」「再交付免許の即日交付」は都留分室でも実施

現在、運転免許証の有効期限を〝うっかりして更新しない〟いわゆる「うっかり失効」の受験手続きと、免許証の亡失、盗難等による再交付免許証の「即日交付」は、中巨摩郡八田村所在の運転免許課で行っておりますが、六月二十五日(月)から運転免許課都留分室（都留市下谷三丁目、都留警察署隣り）においても同様の手続きを行っております。

これは郡内地方（富士吉田、都留、大月、上野原の各署管内）に居住する運転者の皆さんの利便を図り、負担を軽くするためのものですので、気軽に利用してください。

申請受付け時間等は次のとおりですが、詳細は最寄りの警察署等へ問い合わせてください。

○「うっかり失効」

月～金　午後一時～午後二時

土　午前八時三十分～午前九時三十分

○「再交付免許」

（警察署で必要な手続きを経てから）

月～土　午前九時三十分～午前十時

（運転免許課）

提言

地域における交通安全活動について

竜王小学校
ＰＴＡ副会長　相沢　佳美

昭和五十年に横浜から、この竜王町に転住しました。

八年前、長男を甲府の幼稚園へ、次男は保育園があることを知り北保育園へ、二年間お世話になりました。

児童に対しての一番大切な、また身辺な、教育があることを、横浜でも、甲府でも、味わなかったことを知りました。

去る五十一年の春に、ＹＢＳテレビで交通安全の話がありました。その時の講演者が、現在、竜王町役場の交通指導員の梅原さんです。

その内容で、一番好きな言葉があります。

〝学校の勉強で百点が取れない時があっても、次のチャンスがあります。でも交通ルールで、百点を取らなければ、命にかかわります。お母さん方、どこが大切かをよく理解して、園児に交通安全教育を身につけましょう〟

これには、心をうたれました。どこの親子さんも、交通事故の恐ろしさは、頭の中では分っています。理屈も知っています。でも、百点の話はもっともです。

保育園で年八回の交通安全教室を親子で二年間受けて、現在、竜王小学校三年生です。はっきり云える事は、町ぐるみで交通教室をして、児童の入学や、卒業期の三月、四月の通園通学路の事故防止の点検を親子で行い、地域ぐるみで、（学校とのつながりを持つため支部長又の名は生活指導係）婦人交通指導員の二名の方に、頭と体で指導を受けます。これは、児童だけでなく、小学一年生から六年生まで、年に二回、実技まで致します。ことに四年生になりますと、自転車のルールも実施致します。

次に申したいことは、昨年の夏、横浜で、交差点の出来事です。町の横断歩道の白線も守らず、ただ青だから渡ると云うだけです。

そこで、私の子供の三年生が、右手を上げて右、左、右を見て渡り、御苦労様と声をかけて渡りました。すると、交通整理のおまわりさんがきて、〝近くで見かけない子供だが、どこの子かな〟と声をかけにきました。

子供は、おまわりさんが急にきたので、びっくりして、緊張しきっています。親の私が話をするのは簡単ですが、少しまっていると、心配することなく、「ぼくは山梨の竜王小学校で、いつも、向う側に渡る時には、右見て、左見て右手を頭より高く上げて渡るんだよ」と得意な顔で話していました。

私は、〝よかった〟と同事に、大人になっても忘れないでほしいと思った。

私は八年前までは、何も考えずに人の運転で乗り回っていましたが、自分で運転する様になってから、自転車のこわさも知りました。けっして車がどいてくれるだろうと思って自由に歩いたり、自転車を乗り回わしてはいけないと常に話し合います。

父親の弁では、いくら自分が正しくても、事故は、相手があって起きるもの、無理な事はぜったいにさけること、痛い思いは本人だけで、誰れの者でもない、泣き顔見せず、笑って暮らそうと家族で話し合います。園児等は、毎日体で覚えているので、はたで見ていると、大人達の恥かしい姿をよく見かけます。

学習塾は、人の力を借ります。交通教室は、自分の力でやります。〝ウッカリ〟せずに、〝しっかり〟しましょう。

子供の健康や体力について語る時、どうしても考えねばならないのは〝安全〟の問題です。幼児、小学生、中学生のどの年齢別層をとっても、死亡原因の第一位が「不慮の事故」です。積極的に事故防止に必要な安全能力を身につけることです。

特に自転車は健康で、便利な乗り物です。子供達にとって興味深い乗り物です。親子さんが自転車を選ぶにも、交通事情をしっかりと頭に入れ、安全第一に考えて、体に合ったものを選びたいものです。帰宅後の事故防止に十分気を付けたいと思います。

騎馬隊による交通安全パレード（長坂）

街頭交通指導所で交通安全を訴える（南甲府）

子供と高齢者の交通安全を祈願する（富士吉田）

二輪車（原付車）安全運転教室を開く（小笠原）

禾生小学校で自転車教室を開く（都留）

甲府駅頭で黄色い羽根を配布する（県交対協）

春の交通安全運動

地区だより

春の交通安全運動は、四月六日から十五日までの十日間、全国一斉に行われ、県内においても、昨年の交通事故の激増に歯止めをかけ、ことしこそ事故の減少をと願い運動に取り組みました。期間中の交通事故は、発生百十一件、死者一人、傷者百四十四人で、前年同期に比し、件数、傷者はわずかに増加したものの死者は二人減となり、また、昨年の運動期間中（五月十一日～二十日）に比して、死者は五人減少しました。

安全意識を高め事故を防ぐために、今後とも積極的に安全運動に参加したいと思いますが、運動期間中に各地で行われた活動の一部を写真でご紹介します。

県交母定期総会を開く

県交通安全母の会連合会は、五月二十二日、ニュー機山において役員等四十五名が出席し、昭和五十九年度の定期総会を開催しました。

総会では、鶴田美技会長が母の会の組織の充実を図り、家庭を中心とした交通安全のための母親活動を強化する旨あいさつし、知事代理・小川県民生活局次長、西村県警察本部長等来賓の祝辞に続いて、県交母退職役員十名に感謝状を贈って多年にわたる功績をたたえ、議事に入りました。

議事は、昭和五十八年度の事業報告、決算報告を審議承認し、次に昭和五十九年度の事業計画と予算案を審議決定しました。

続いて、全国交通安全キャラバン隊への参加等について協議し、家庭や地域の交通安全の主役として一層の活動を展開することを申し合わせて会を閉じました。

優良二輪車指導員二名

全日交表彰を受賞

優良二輪車安全運転指導員の全日交・二推委員会表彰が三月二十一日、東京の半蔵門会館で行われ、平素二輪車の安全運転指導に積極的に活動している全国の持別指道員と指導員百名が表彰されました。

本県関係の受賞者は次の二名です。

特別指導員、森本直幸（甲府）、指導員、石井昇（上野原）

二輪車・原付車の事故防止を

県二推委員会

県二輪車安全運転推進委員会では、四月二十五日、ニュー機山で関係者二十名が出席し、昭和五十九年度の委員・幹事合同会議を開催しました。

まず、新しい委員、幹事十一名を委嘱し、議事に入り、昭和五十八年度事業報告と昭和五十九年度事業計画を審議決定しました。

続いて高校生の二輪車（原付車）安全運転講習、原付技能講習等について協議し、その積極的な推進により事故防止を図ることを申し合わせるとともに、二輪車、原付車の安全運転指導体制を充実強化するため、指導員、準指導員の認定審査を行うこととしました。

新規購入映画の紹介

山梨県交通安全協会では、新しく次の映画を購入しました。無料でお貸しいたします。ご活用ください。

一「アニメーション」
ちびたといさむ
16ミリ、カラー、10分
幼児・低学年向

子どもの交通事故で一番多いのは、とび出し事故です。このとび出し事故に焦点を合わせ、子犬のチビ太と仲良しのイサム君の友情ものがたりを通して「とび出し」の危険や信号の見方横断のしかたなどを、わかりやすく子どもに親しみやすい犬の会話から自然に身につくようにしたものです。

二「アニメーション」
ひぐまのおんがえし
16ミリ、カラー、10分
幼児、低学年向

子ども達に、なぜ交通ルールが必要なのか、横断歩道を渡らなければならないかという基本的なことを理解してもらわなければなりません。この映画は、キタキツネとひぐまの、ほのぼのとした親しみやすいアニメーション物語を通して、交通ルールの必要性や、それを守ることの大切さに気付いてもらおうとしたものです。

三　**長生きは交通安全から**
16ミリ、カラー、18分
高齢者向

お年寄りの交通事故がふえています。なぜお年寄りの事故が多いのでしょうか。お年寄りのさまざまな日常の事故の事例を通して、交通安全を訴えています。

四　**眠りつづける少年**
16ミリ、カラー、28分
一般向

この映画は、第一次交通戦争のさなかに生をうけ、そのまま戦火にまきこまれてしまった三人の男女をめぐる記録です。

Ａは無残にも傷つき、今その悲しみを自分の声で語る事すらできない。Ｂは生まれたその瞬間から遺児となり、Ｃは幼児の時に体験した深い衝撃を一生抱き続けていく。この苦渋の歳月を耐え続けてきた交通戦争の生き証人の悲しく長い日常をつづっています。

五　**生の死の記録**
16ミリ、カラー、28分
一般向

交通事故で身障者になった病床の若者と、つきそう妻との生への闘いをストーリーの軸に、車どうしの衝突事故、乗用車が自転車をはねた事故、とび出し事故、オートバイと乗用車の衝突事故等を織込み、事故の恐ろしさと事故を起さぬための心得を描いたものです。

六　**起こしからでは遅い**
16ミリ、カラー、30分
運転者向

多くの交通事故は、危険なことを危険だと読みとるだけの識別能力がなかったことが原因で起こっています。この映画は、安全運転五則を中心に、かくれた危険性を科学的・心理学的に解析したものです。

七　**ビューティフルドライバー**
―高速道路の安全走行―
16ミリ、カラー、27分
運転者向

高速道路を安全に走行するためには、一般道路と違ったルールやマナーが必要です。この映画は、そのルールやマナーをとりまとめ、また、過去の事例や教訓をとりあげながら、一人ひとりがマナーを身につけたビューティフルなドライバーになってもらうことを意図したものです。

○　県下一の
広いコースで　早い上達を！
○　伝統ある当校で
1日も早く免許証を　あなたの手へ
財団法人
山梨県交通安全協会経営
公認　山梨自動車学校
八田村野牛島1828　山梨県運転免許センター内
ＴＥＬ　05528―5―0752